

令和6年度 東小 学校関係者評価書（川南町立東小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		自己評価結果の考察及び改善策等	学校関係者評価		学校関係者委員のご意見
		項目	総合		項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進							
1	家庭教育支援の充実に努める。						
	・家庭教育学級、学級懇談会の活用	3.2	3.1	・学級通信を必要あるごとに発行し、学習状況や連絡事項を適宜伝達し、共通理解・共通実践に努めている。 ・学級通信の中にミニ宿題の枠を設け、今日覚えてほしい学習内容を掲載することで、子どもは学習に取り組み、保護者には通信に目を通していただけるように工夫している。	3.0	3.1	○メディアに関する指導は粘り強く繰り返し児童に指導する必要がある。また、保護者への啓発活動もあらゆる機会に行う必要がある。家庭での望ましい生活リズムの定着に向け、今後とも継続した取組の充実を図ってほしい。
	・「早寝、早起き、朝ごはん」等生活リズム定着への啓発	2.8		・メディアについては、11月に授業実践を行ったが、家庭と連携した取組はまだ行えていない。 ・朝の会や帰りの会で、規則正しい生活や食事の習慣等について話すことによって、健康な体を育むことの大切さを意識付ける取組を推進する。	3.3		
	・保護者相談、個別面談の充実	3.2		・個別面談を実施し、現段階の学習、生活等の状況等について説明するとともに、家庭状況の変化等について話をいただき、学級担任と保護者の共通理解・共通実践に努めている。	3.0		
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動)						
	・保護者、地域と一体となった挨拶運動や読み聞かせ活動の推進	3.0	2.8	・保護者や警察と連携した避難訓練は行っているが、地域の方々と連携した避難訓練は行えなかった。 ・読み聞かせ活動を通して、児童の読書活動の推進を図っている。 ・自分からあいさつをすることが難しい児童も見られる。これからも声かけなどしていきたい。	3.0	2.8	○来校したときに児童のあいさつがあまり良くなかった。以前は高学年児童が、積極的にあいさつをして下級生に手本を示す様子が見られたが、コロナ禍の時期にその伝統が失われたようである。朝の見守り活動において粘り強く声をかけている。今後も地域と連携しながら児童にあいさつの意義や大切さを理解させ、適切なあいさつ習慣を定着させていきたい。
	・コミュニティ・スクール協議を基にした協働事業の推進	2.2		・地域行事への参加を呼びかける文書の配付、掲示板への掲示を行っている。【海岸清掃（7月）、収穫祭（11月）、花植え活動（12月）、ウォークラリー（3月）】 ・金鈴学園との情報交換会は年2回実施している。また、保育園とは1月に情報交換を実施しているが、日常の交流について検討していきたい。	2.3		
	・読み聞かせボランティアによる読み聞かせ活動を行っている。	3.3		・年間計画通りに読み聞かせボランティアによる読み聞かせ活動を行っている。	3.0		
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進							
1	読書活動を推進する。						
	・年間貸出冊数14,000冊以上の継続	3.2	3.4	・町立図書館の借用図書や学校図書館の貸出図書の利活用を通して、年間読書数の増加を図る。 ・水曜の読書の定着がもう少しがあるので、朝読書の呼びかけを強化し、朝読書の推進を図る。 ・家庭での読書啓発のため、年2回のファミリー読書を継続する。 ・ファミリー読書の推進を通して、家庭での読書活動の習慣化を図る。 ・図書・掲示委員会の児童の取組の充実を図っている。（スタンプラリー・読み聞かせ・図書館まつり等） ・1月末現在の貸出冊数は12855冊である。 ・県立図書館のデジタル図書のサービスの活用を図っている。	2.7	2.9	○家庭での読書が課題である。家庭での読書習慣を身に付けさせるための家庭と連携した取組が求められる。 ○多読賞やよく読んでいる児童を放送で紹介するなど、児童の励みになる取組を行ってみてはどうか。
	・読み聞かせ時間の確保	3.5			3.0		
	・読書に親しむ時間の確保	3.5					
2	確かな学力を育む教育を推進する。						
	・学ぶ意欲の向上	3.1	3.0	・個別指導を充実させ、得意分野の伸長を図るとともに、苦手な分野にも積極的に取り組む児童の育成を図る。 ・「ひなたの学び」を主題研究の中に盛り込み、「ひなたの学び」を視点に授業改善に取り組んでいる。特に「ひ」（ひとりひとりが問い合わせをもち）に焦点を当て、本校の実態に応じた「問い合わせ」のもたせ方について研究を進めているところである。 ・一人一人に問い合わせをもたせる授業の仕掛けを行うことで、意欲をもって能動的に学ぶ児童を育て、「ひなたの学び」の実現を目指したい。	2.7	3.0	○学力を上げるために具体的にどんな取組を行うのか、明確にして全職員で実践に取り組んでほしい。 ○学びタイムの充実を図ってほしい。 ○幼稚園段階からの取組も必要ではないか。幼保小連携を意識してほしい。 ○学習支援ボランティアを入れて基礎的・基本的な内容の定着を図る取組と一緒にに行いたい。
	・基礎的学力の定着 (CRTにおける全学年全国平均以上)	2.9		・学びタイムの充実（取り組む内容を決めて共通理解・実践する必要がある。） ・スマイルネクストを有効に活用したい。 ・学びタイムの時間にコグトレを実施している。子どもたちにとって取り組みやすく、積極的に活用している。 ・学力に大きな差があり一斉授業だけでは不十分である。チームでの指導や個別指導の時間の設定が必要である。	3.0		
	・授業等におけるICT機器の積極的活用	2.9		・特に算数や社会科で活用しているが、さらにタブレット等の活用を図り、個に応じた指導の充実につなげたい。 ・タブレットの家庭持ち帰りを全校で取り組めるようにしたい。	3.3		
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。						
	・人権教育（命を大切にする教育）に関する参観授業の設定	3.4	3.5	・ピアサポート活動に対しての意識や取組が十分ではなかった。ピアサポートを推進したい。 ・教育相談アンケートの結果を真摯に受け止めながら、子ども達の悩みや話に耳をかたむけて対処することができた。 ・あらゆる機会を捉えて、命の大切さに気付かせ、唯一無二の存在である自分や友達を認め大切にしようとする心情を育む取組を推進する。	3.3	3.2	○どんぐり班による異学年交流活動は、東小の良き伝統である。今後も大切に取り組んでほしい。 ○スクールカウンセラー、SSWとの連携や金鈴学園との連携を重視し、児童に寄り添った指導を継続すること。
	・児童縦割り班活動の継続	3.4		・どんぐり班活動を通して、縦割り班での協力体制の確立と上級生による下級生への教え合い活動の推進を図る。 ・計画的に実施できている。	3.3		
	・教育相談の充実 (友達に優しく接する児童の割合95%以上)	3.7		・毎月の教育相談アンケート及び教育相談の実施により、いじめやトラブル案件の素早い把握と解決を図る取組の実施に努めている。 ・11月には自宅への持ち帰りいじめアンケートを実施し、いじめ案件の掘り起こしを行っている。 ・教育相談週間、ハートフル委員会、特支委員会を毎月設定しており、児童理解に関する職員の共通理解ができている。	3.0		

4	特別支援教育を推進する。							3.1	○関係機関との連携を大切に今後とも一人一人を大切にした指導を心掛けてほしい。	
	・個に応じた指導・支援の充実	3.4	3.4	・個別の教育支援計画の目標の立て方や修正の仕方を共通理解した。さらに家庭との相互チェックを実施した。 ・気になる児童については、金鈴学園や保護者と密に連係をとって指導にあたることができた。 ・保護者の願いと児童の困り感の解消に向けて、児童の実態に応じた日々の教育実践に努める。 ・学級の気になる児童について、特別支援コーディネーターに相談し、校内ケース会議を開くとともに、職員会で情報を伝達するなど、個に応じた支援の在り方について職員間で連携を図っている。また、保護者との面談やエリアコーディネーター、チーフコーディネーターとも連携を図っている。 ・児童相談所、金鈴学園、町福祉課などの関係機関との連携を図りながら児童の見守りを行っている。また、今年度配置されたスクールカウンセラーを積極的に活用している。 ・児童の自己肯定感の向上を図るための日常指導に努める。	3.3					
	・共生社会をめざした人権感覚の醸成	3.4		3.0						
5	・児童の自己肯定感の向上	3.3		3.0						
	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。							3.2	○振興班に入っていない世帯も増えてきて、地域行事への参加が少ない状況である。今年度は、学校のオープンスクールと公民館行事の収穫祭を同日に開催することができた。公民館の写真展に児童や学校職員も参加することができ、地域への理解を深めることができた。	
	・地域人材を活用したふるさと学習の推進	3.0	3.0	・川南のよさを調べる活動で、地域の人材を積極的に活用するなどふるさと学習の充実を図っている。 ・学年や担当間の引継ぎが不十分であった。これまでの活動を一覧表にまとめ、確実に引き継いでいく。	3.7					
	・地域行事への積極的な参加	3.2		・行事開催時は、町歌を斉唱し、ふるさと川南町を意識させる機会としている。 ・どの教科の学習においても川南町を話題にして関連付けて指導を行うようにしている。（社会科の産業、理科の自然、総合の探究活動など）	3.0					
		2.5		・地域行事への参加を呼びかける文書の配付、掲示板への掲示を行っている。【海岸清掃（7月）、収穫祭（11月）、花植え活動（12月）、ウォークラリー（3月）】	3.0					
6	キャリア教育を推進する。							3.0	○川南には多くの人財があるので、積極的に活用し、キャリア教育の充実につなげてもらいたい。授業実践後は、お礼状を送付してほしい。その際、誤字脱字には気を付けること。	
	・キャリア教育の視点を生かした授業実践	2.8	3.0	・キャリア教育の視点をもった授業を計画的に実施している。（児湯食鳥、サンA、スーパーマーケット見学、ものづくりなど）今後も地域の方々を招き、より充実したふるさと学習の推進を図る。	3.0					
	・キャリアパスポートを通した家庭との連携	3.1		・学校行事の前後などにキャリアパスポートの記入を行い、学びの積み重ねを行っている。	3.0					
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。							3.2	○タブレットを有効に活用することで学びタイムの充実を図り、基礎基本の定着に努めてほしい。 ○中学校と連携し「中学生の声を聞く」機会を設定してはどうか。	
	・ＩＣＴ機器の活用による興味・関心、意欲の伸長	3.1	3.1	・主なタブレットの活用が、総合的な学習の時間と学びタイムのドリル演習であった。教科におけるタブレットの使用頻度を増やしていく。 ・タブレットの持ち帰りと宿題の活用を図っている。 ・デジタル教科書は、教員の教材研究にかかる時間を減らすことができるとともに子どもたちにとって見やすく操作性があるため非常に有効である。積極的に活用したい。 ・ALTによる外国語活動の推進を図り、物事を英語で表現できるスキルアップ活動に取り組んでいる。	3.0					
	・国際化の進展に伴う外国語教育の充実	3.1		3.3						
III 教育を支える体制や環境の整備・充実										
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。							3.0	○OJTの時間が確保されている。その時間を大切にし、若手の職員に積極的に声をかけてほしい。 ○参観日の授業で作業的な内容の学年があった。参観授業の内容の検討を行う必要がある。 ○今年度、学校評価のアンケートの精選と町の評価指標との整合性が図られている。	
	・OJT、メンター機能を活用した職員間の対話を重視	3.0	3.4	・金曜日の放課後はOJTの時間として職員室で仕事をすることにしている。気軽に相談できる雰囲気づくりを行っている。 ・初期研修担当だけでなく、各教科主任の模範授業参観、職員研修としての模擬授業の実施、校務部内での指導等、全職員で初期研修者の指導を進めている。	3.0					
	・働き方改革推進プランによる具体的な取組の推進と保護者への理解	3.1		・県発行のコンプライアンス通信の読み合わせを行うとともに毎月、コンプライアンスチェックを行うことで、職員のコンプライアンス意識の向上と維持を図っている。 ・年度当初の学校説明会において校長から学校における働き方改革に関する話と児童の登校時刻（7：20～）について保護者へ周知と協力をお願いしている。これにより、今年度は7：00前に登校する児童はいない状況である。	3.0					
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。							3.4	○地域と連携して児童の安全な登下校の見守りを継続すること。（登下校時の見守り、植込みの伐採、ハンドアップ作戦の継続、川南交番の見守り、自転車のマナー、ヘルメット着用の徹底） ○職員の危機意識を高め、下校指導の徹底を図ること。	
	・危機管理マニュアルの見直しと研修、非常時訓練の充実	3.5	3.4	・計画的に安全点検や避難訓練を計画することができた。しかし、雨天時の対応など、反省点もあったので、次年度はその部分を改善していくたい。 ・年度当初に、避難についての共通理解が必要である。（次年度は4月に避難訓練を設定）	3.3					
	・事故等の防止をめざした保護者、地域との連携	3.2		・トラブルが起きたとき、一部の職員しか知らないことがあった。職員間の連携を図る必要がある。 ・毎日の児童の登下校の見守りを館長様を中心に地域の見守り隊の方々が行ってくださり、安全に登下校できている。管理職もできる限り手挙げ横断の指導を継続している。	3.7					
		3.5		・給食時の見届け指導により、安全に給食を実施することができた。	3.3					
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進										
1	学校体育の推進に努める。							3.0	○生活リズムは家庭での過ごし方が大切である。家庭と連携した取組の充実を図っていく。 【全体を通して】 ○評価の時期が早い。時期の見直しを図ってほしい。 ○委員と全職員が課題を共有し、課題解決にあたるために次年度は拡大学校運営協議員会を設定すること。	
	・基礎体力の向上	2.8	3.0	・体力向上に関わる保護者との連携が不十分であった。 ・東っ子パワーストレッチタイム、体育科学習カードの活用を図りたい。 ・体力テストの結果を見るとストレッチタイムの種目に関しては昨年度より記録が伸びていた。今後も継続して取り組んでいきたい。一方で様々な理由でストレッチタイムを行っていない学級があるため、体育の授業においてストレッチ運動を行うなど、基礎体力向上のための活動を行うよう共通実践を図りたい。	3.0					
	・健康増進意識の高揚（う歯治療率80%以上）	3.2		・むし歯治療について啓発はしているが、治療が進んでいない。今後さらなる呼びかけを行っていく。 ・年2回の歯ブラシチェックの実施や、11月にはう歯未治療児童に対し個別指導を行い、う歯治療率80%以上を目指す。 ・メディアの適切な利用についてbingoカードチャレンジを実施することで、家族とのコミュニケーションを取りながら実践できる手立てをとっている。	3.0					